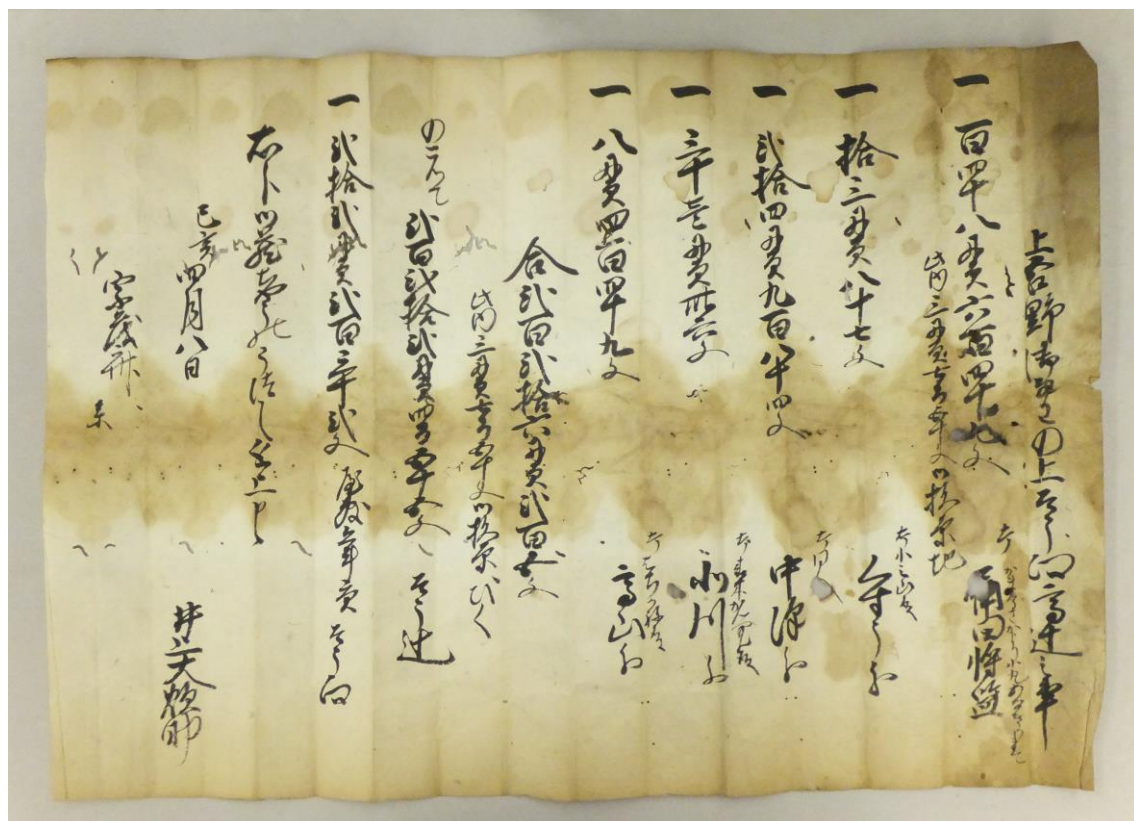


吾那？我那？吾野？我野？

～「あがの」を表わす漢字たち～



特別展「吾野～未来へつなぐ地域の記録～」は、おかげさまで盛況のうちに終えることができました。みなさまありがとうございました。

期間中、とても多くの方からご質問いただいたのが「あがの」という名前を表わす漢字の変遷についてでした。そこで、今回はそのお話にしたいと思います。

吾野地域を示す文言が初めて史料に登場するのは、14 世紀前半です。秩父神社(秩父市)の造営に関わる元亨 4(1324)年の文書に、「吾那郷」という言葉が出てきます。また、江戸時代の初めに法恩寺(越生町越生)の僧が同寺の歴史を記した「法恩寺年譜」という書物の、14 世紀ごろの記述にも「吾那」という文言が複数見られます。これらのことから、中世の前半には「吾那」と表記されていたことがわかります。その後室町時代になると、碑文に「我野」の字が見られるようになるとされており、このころには「我」や「野」の文字も使われたようです。

江戸時代のはじめ、慶長 4 (1599) 年に作成された文書では表題に「上吾野」とあり、江

戸初期は現在と同じ漢字が使われていたことがわかります。しかしその後、文書の表記は「我野」に変わり、それが幕末まで続きます。

明治 22(1889)年、7つに分かれていた村々が再び統合し、「吾野村」が誕生します。このとき決められた「吾野」という村名の由来について、「埼玉県町村編制理由書」では「往時ノ村名ニ復シタルナリ」と記されています。ここで注目したいのが、「往時」がいつなのか、ということです。現代の私たちは秩父神社文書や法恩寺年譜から「吾那」という表記が一番古いことを知っています。しかし、寺社の文書という性格上、当時どれだけの人々がこのことを把握していたか定かではありません。地域に残された史料ではないため、存在を知った上で採用されなかった可能性もあります。そこで村の史料からと考えると、おそらく「上吾野」と表記された慶長年間の文書が最も古い物であり、こちらが採用され「吾野」となったのではないかと思われます。

しかし、残存している史料が乏しくこの説が確実とはまだ言えないのが実情です。今後も真相究明に努めて参ります。(金澤)